

	令和5年度 大瀬戸小学校だより 第1号	令和5年 4月10日(月) 西海市立 大瀬戸小学校	
		校長 前野 泰介	

## 新年度スタート

つい先日、離任式・修了式を終えたばかりですが、無情にも時は過ぎていきました。先週、着任式・始業式、続いて入学式を行い、勢いよく新年度がスタートしました。

春休み中の学校は慌ただしく、じっくり悲しみに浸る暇などありませんでした。教室の移動、新メンバーとの引継ぎ、担任の決定等、何とか船出することができました。

学校は、与えられた**人員**・**人材**でよりよい結果を出すことが求められます。現実問題として、本校でも**人員**不足は否めません。このことは、報道等で御承知かと思えます。よき**人材**はそろっています。教職員もですが、主体的・建設的な保護者の皆様、地域の方々がいてくださることが本校の強みです。保護者の皆様、地域の皆様と手を取り合っていくことで、**人材**は互いに生かされます。ともに、大瀬戸の子どもたちの明るい未来を創っていきたく強く思います。どうぞ引き続き、御協力を賜りますようよろしく願いいたします。

今年度の学年配当や役割は次の通りです。

校 長	まえの たいすけ 前野 泰介	初任者指導	てぐち けんいち 出口 研一 ◎
教 頭	いしやま ひろみ 石山 裕美 ◎	専科教諭	いまざと のりこ 今里 紀子 ◎
教務主任	いしはら ひさし 石原 寿	養護教諭	こしお めぐみ ◎ 越尾 めぐみ ◎
1年担任	あさかわ しずか 朝川 静香	学校栄養職員	さかい りえこ ◎ 堺 里絵子 ◎
2年担任	えがしら とおる 江頭 徹	事務主幹	さかくち まさひこ 坂口 正彦
3年担任	なかにし まさと 中西 将仁 ◎	用務員	やまぞえ ゆみこ 山添 由美子
4年担任	たけほん とみえ 岳本 登美絵 ◎	学習支援員	みずもと ちなみ 水本 ちなみ
5年担任	いちのせ けんしろう 一瀬 健士朗	//	さかもと なほこ ◎ 坂本 菜穂子 ◎
6年担任	はと あきこ 破戸 亜希子	//	おおくぼ みほ ◎ 大久保 美穂 ◎
おおぞら	やすなが なおこ 安永 直子	図書館運営補助員	おがた はるか ◎ 小方 悠 ◎
たんぽぽ	いしはら ひさし 石原 寿 (教務主任兼任)	ALT	カディージャ
つくし	なかむら まき ◎ 中村 麻希 ◎	英語指導補助員	未 定

特別支援コーディネーター  
 安永・中村  
 研究主任 江頭  
 ※今年度研究発表会  
 体育主任 一瀬  
 ※兼市小体連の運営  
 生活指導主任  
 破戸  
 コミュニティスクール  
 学校コーディネーター  
 江頭・朝川  
 PTA 学校代表  
 石原  
 市P連事務局  
 石山教頭

### 【4月の主な行事について】

○ 7日(金) 入学式	○ 19日(水) 交通安全教室(1・2年)
○ 14日(金) 歓迎集会・歓迎遠足	○ 26日(水) 避難訓練
○ 17日(月) 1年生給食開始	○ 27日(木) 授業参観、学級PTA、PTA総会
○ 18日(火) 全国・県・市学力調査	○ 28日(金) 西海市教育研究会(午前中4時間)

# 「なみ（波）大瀬戸」とは

本通信のタイトルにあるように、**な**かよく**み**んなで教育活動に当たることを意味します。子どもも大人も、日々の生活の中での何気ない瞬間に、他者を思いともに協働していこうとする構えをもつ。その一つ一つの小さな波が、やがて大きな**波**となり、学校を揺れ動かす。海のそばの大瀬戸小学校だからこそ、このイメージが浮かびました。

小さな**波**は、海風が作ります。吹く方向がばらばらの状態では、**波**は打ち消し合って消えてしまいます。同じ方向を向き、遠くへと進みながら、**波**は集まり**うねり**となります。この言葉の背景には、過去の本校において**うねり**が作りにくかった時期があり、そこを変えなければならぬという強い意志が存在します。コロナ禍における“制限”はその一つです。変えるための秘策が「**な**かよく**み**んなで」という一見、何気ない言葉のようで深い意味を含ませた言葉なのです。

さて、まずは、本校の教育課程に関する**波**（秘策）を紹介します。

人員不足を補うため、**担任**の中の一人が教務主任を**兼任**することにしました。業務量からすると現実的には厳しい決断です。同様に、他の**教職員**も負担し合い業務を**兼任**することになっています。そこで、我々**教職員**で、ある合言葉を共有することにしました。

「**おせっかい**」です。担当だけに抱え込ませず、声を掛け合い割り込みあって教育活動を推進していきます。

「**おせっかい**」を形にしたものの一つに、「**交換授業**」があります。皆さんと同じように、**教職員**一人ひとりには、得意不得意や経験の有無があります。それを生かすことで、質の高い指導が保障できます。例えば、4年岳本学級の体育科の授業を2年江頭教諭が行い、その代わりに2年の図工科と音楽科を4年岳本教諭が行います。岳本教諭の足が不自由であることも理由の一つです。6年破戸教諭と5年一瀬教諭は互いに社会科の**授業を交換**します。一瀬教諭は、中学校で社会科歴史分野の授業経験を積んでいます。3～6年の音楽科や理科の授業は、専科として今里教諭や石山教頭が行います。また、特別に支援が必要になる児童には、特別支援コーディネーターの安永教諭を中心に、つくし学級中村教諭、養護教諭越尾教諭や学習支援員がかかわります。

これらのことは、**児童**にとっても**保護者**にとっても、プラスの材料になると考えます。ここ数年は特に、**児童**は、コロナ禍の影響で、限られた大人としか触れ合っていません。「子どもに残すべき“財産”は、お金・地位・名誉ではなく、より多くの大人の渦の中に巻き込まれた“経験”」と言われます。学級に**複数の教師**が出入りすること自体に価値があります。また、相談をしたいと思ったときに、担任だけではなく他の教師にすることもできます。人と人ですから、相談しやすいしにくいがあるのは当然です。

**P T A**や**コミュニティスクール**としての活動においても、「**な**かよく**み**んなで」を何かしら形にしていきます。地域コーディネーターの佐々木さん、市P連会長竹口さんと新P T A会長の柄本さんをはじめとする方々から、「学校任せにせず、自分たちが動く」という心強い言葉をいただいております。大きな変革の年になるような予感がしています。

**児童**の「なみ」については、追々掲載していきます。よいことばかりではなく、課題を掲載することもあるかと思えます。ご理解とご協力の程お願いしたいと思います。